

金沢建具工房株式会社

業種	建設業	事業所所在地	石川県金沢市	資本金	20,000千円
				従業員数	6名

 	被承継者（左）		
	松田 年武	80歳	※承継時
	承継者（右）		
	山根 敏秀	58歳	※承継時

事業承継を行った時期	被承継者と承継者の関係
2018年12月	その他の親族外
承継前の主たる事業の内容	承継前の主たる事業の課題
<ul style="list-style-type: none"> 木製建具製造、内装木工事が中心。 ゼネコンからの注文を中心に木製大型ドアや木製建具の製造取付など。 	<ul style="list-style-type: none"> 下請け工事の受注が売り上げの大部分を占めるため、利益率が低く抑えられている。 一般的な建築建具は、メーカーの作るユニットドア（規格製品）が主流となっており、オーダー建具分野はより一層のオリジナリティが求められている。 新販路の開拓（新たな流通ルートや直販の確立等）

事業承継を実行するまで		
きっかけは？	承継計画の立案	承継までの不安と準備
承継実行の 同年前	被承継者と承継者で話し合ったこと	被承継者の承継に対する不安
創業60年の歴史を誇る80歳のオーナー経営者は、事業を継続するか悩んでいた。相談を受けた顧問税理士は、建具製造の匠の技術を持つ金沢にはなくてはならない会社を後世に引き継ぐことを決意した。	<ul style="list-style-type: none"> 社内の従業員からの後継者選考。 社外から経営者の想いや志を共有する後継者の選考。 	長年顧問を務めている税理士でありコンサルタントでもあったので不安はありませんでした。
	関係者との調整	承継者の承継に対する不安
	従業員、金融機関等と都度実施した。	旧知の会社でもあり、経営改善の方向性も分かっていたので特に不安はありませんでした。

これに一番苦労した！
経営者の想いや志を共有する後継者の選考。

事業承継について相談したこと	
相談した機関の業種	承継に関して受けたサポート内容
税理士・税理士法人	<ul style="list-style-type: none"> 財務の把握・月次決算等の会計業務のサポート。 職員採用手続き、古物商許可申請手続き等の総務業務。 売上げ重視の経営ではなく利益率重視の経営への転換。
いつから相談？	
承継実行の 5年前	
相談のきっかけ	
以前から取引や付き合いがあった	

経営革新等に係る取組の標題

ショールーム新設による個人客へのオリジナル家具受注拡大

経営革新等に係る取組の内容	商品の新たな生産又は販売の方式の導入
---------------	--------------------

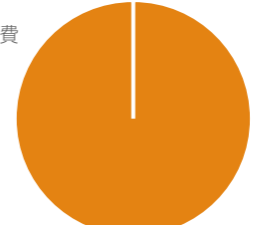
●当社は創業以来60年にわたって、木製大型ドアや木製建具の製造取付、オリジナル建具の製造取付を行っている建築建具店で、下請工事の受注が売上の大部分を占めていたために利益率が低く抑えられてきたことや、年によって売上高が大きく変動することによる収益の不安定が課題であった。

●そこで、下請け主体の受注体制から脱却して直接受注の比率を増やすために、建具製造の匠の技を用いたオリジナル建具（アコーディオン障子等）の開発と販売を計画した。

●当社が日本で初めて製作した「アコーディオン障子」は、カーテンと障子の特性を組み合わせた高級感のある新しい金沢建具で、部屋の間仕切りとして使うことも可能なため、和室に限らず洋室にも和モダンを演出することができる。

●さらに、利益率の高い個人客からの直接受注を増やすため、ショールームを新設した。新設したショールームでは、「金沢建具の匠の技商品」等を展示することにより、金沢古民家改修需要にも迅速に対応し、個人客を新規顧客として取り込み販路拡大を目指す。



地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳
<ul style="list-style-type: none"> 若手社員を雇用し、建築建具製造の伝統技術やノウハウを社員に伝承することにより金沢建具の技を後世に伝承する。 地元伝統工芸品とコラボしたついでやタペストリー等の新商品開発。 	設備費  経費の主な使い道 設備費（ショールーム新設工事費、来客者用駐車場整備工事費、工場用集塵機導入費）

認定経営革新等支援機関の名称：税理士法人マネジメント			
認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容			
<input type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の立案	<input checked="" type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input type="checkbox"/> 補助事業の実施

補助事業実施にあたり申請書の作成から事業計画の実施、実施報告書の作成まで細かなアドバイスをいただいた。ショールーム新設費用が大幅に増額し、金融機関からの借入が必要となった際も、アドバイスをいただいた。

今後に向けて～次の目標	
2019年から2022年に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 金沢古民家に眠っている建具を再生し付加価値を付けた新たな商品としてリユース。 地元の伝統工芸とコラボしたついでやタペストリー等の新商品開発。 建築建具のキット化を実現し、建具文化を海外へ輸出。
営業利益	27 %UP

これから事業承継に取り組む事業者の方へ	
被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
信頼できる後継者に巡り会うことができ、本当によかったです。	コンテストや品評会で優秀な成績を収めている伝統ある企業が、後継者がいないというだけで廃業するというのが忍びなかった。県内の建具業の中では従業員数も多く、施工能力も高い会社のため、収益構造を変えればさらに従業員にも社会にも貢献できる会社でできると考え、承継に至りました。